

⑨ 日本国特許庁 (JP)  
⑩ 特許出願公開  
⑪ 公開特許公報 (A)

昭59—136125

⑫ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 01 F 5/24

識別記号

序内整理番号  
6639—4G

⑬ 公開 昭和59年(1984)8月4日

発明の数 1  
審査請求 有

(全 3 頁)

⑭ 落下積層式粉粒体連続混合方法

豊中市北緑丘1—2—6—306

⑮ 出願人 福星裕之

豊中市北緑丘1—2—6—306

⑯ 特願 昭58—12042

⑰ 代理人 弁理士 中村稔 外4名

⑯ 出願 昭58(1983)1月27日

⑯ 発明者 福星裕之

明細書

1. 発明の名称 落下積層式粉粒体連続混合方法

3. 説明の詳細な説明

本発明は搬送装置上に2種類以上の粉粒体を落下積層させて逐次的に混合する方法に関する。

搬送装置上に、その長さ方向に配備され、搬送装置の巾方向に延びる複数個の放出ヘッドを設け、粉粒体を、これを収容する貯槽から運動状態で前記放出ヘッドを通して、前記搬送装置上に放出され、前記搬送装置の上流に放出され、搬送装置によって運ばれる粉粒体層上に順次粉粒体を層状に積層させることを特徴とする粉粒体の連続混合方法。

2種類以上の粉粒体を均一に混合する場合、通常は被混合物を一定の容器に入れて各種方法例えば羽根を回転させるか、容器自体を回転させて攪拌する方式が採られている。混合を逐次的に行う場合にも搅拌容器の一方より被混合物を供給し容器の中で搅拌を行い他方から排出するのが通常である。然しこの様な搅拌をともなつた混合方式は、大きな動力が必要をばかりでなく混合し上りとする粉粒体の比重・粒度が異なるときは逆に分離作用が働く場合もあつて十分な混合は非常に難かしい。

本発明は被混合物を搅拌することなく逐次的に混合出来る方法を提供するものである。

本発明によれば、この方法は、搬送装置上にその長さ方向に配備され、搬送装置の巾方向に延びる複数個の放出ヘッドを通して、前記搬送装置上に放出させ、前記搬送装置の上流に放出され、搬

特開昭59-136125(3)

